

自由論題 5 東・東南アジアの国際関係・政治 報告 3

石塚迅 (山梨大学)

「公共圏（公共空間）と中国憲法学—北京・三味書屋の試みに注目して—」

筆者の専攻は中国憲法および比較憲法である。憲法学を縦糸に、中国（東アジア）研究を横糸に、布を織っている。近年、その縦糸においても横糸においても、市民社会、公共圏、公共空間についての理論的・実証的研究が注目を集めている。そうした諸研究は、その多くが市民社会の勃興・再興、公共圏（公共空間）の拡大を好意的に捉え、それらに社会変革・社会改良の契機を見出そうと努めている（ただし、憲法学では公共圏（公共空間）論を懐疑的に捉える立場も少なくない）。

本報告では、中国の憲法学が「市民的公共圏」の問題とどのように向き合ってきたかを考察する。まず、中国研究（横糸）および憲法学（縦糸）において、市民社会、公共圏、公共空間といった概念・問題がどのように扱われてきたかを概観する。次に、北京の三味書屋という老舗民営書店の願望と模索、およびそれらを阻む障害に焦点をあて、中国における「市民的公共圏」の実践的・理論的課題の一端を明らかにする。最後に、中国の憲法学がそれら課題にどのように応答できるのかについて再度検討を試み、中国における「市民的公共圏」の可能性を展望する。